

訪日客誘致 ノウハウ共有

北関東と埼玉

訪日客誘致のコンサルティング業、ジャパン・ワールド・リンク(JWL、宇都宮市)は2020年1月に栃木県佐野市で、自治体と観光業者が誘致の成功例を学ぶイベントを開く。誘致の優れたノウハウをワークショップなどで共有するのが狙いだ。北関東は訪日客の伸びが鈍いのが課題となっており、交流を盛んにして底上げする。



JWL、佐野で来年サミット 自治体・観光業、交流深める

イベントの名称は「北関東インバウンドサミット」。北関東3県に加え、埼玉県の自治体や観光業者も参加できる。既に18年から同様の訪日客誘致JWLは北関東インバウンドアワードをサミットに衣替える(今年の表彰式、左が宮地社長)

4県の訪日客の伸びは鈍い(2018年)		
	外国人延べ宿泊者数(万人)	都道府県別順位
全国	8858.9 (11.2)	
茨城	21.3 (▲7.3)	37 (35)
栃木	28.8 (6.1)	32 (32)
群馬	28.3 (▲2.9)	34 (30)
埼玉	20.5 (▲6.4)	38 (36)

(注)カッコ内は前年比増減率%、順位。▲はマイナス
(出所)観光庁の宿泊旅行統計調査

イベントは開催しているが、20年からは参加者が成功事例、ノウハウを学びやすい参加型のワークショップ、セミナーを重視するのが大きな特色だ。ワークショップは会場の佐野市がイスラム圏の観光客受け入れに力を入れているため、イスラム教の戒律に沿った食事の提供方法などを紹介する。古民家を改装したゲストハウスの運営や外国人の喜び、観光案内といった具体的なテーマの設定

も予定している。開催地にレガシー(遺産)を残すことも意識する。佐野市ではサミットに先立つ今年6、7月に英語版サイトの作成方法などを学ぶワークショップを催す。JR両毛線にあしかがフラワーパーク駅が開業し、沿線の同市にも訪日客誘致の好機が訪れている。観光立市推進課は「飲食店などが前向きに取り組むきっかけになる」と期待する。今後は埼玉も含む4県で持ち回りで開催し、各地に訪日客誘致のためのノウハウや体制を根付か

せる。JWLは18年から優れた外国人向け動画やサイトを表彰し「北関東インバウンドアワード」を実施してきた。ただ観光業者らの交流の場となる表彰式は「出席者が選考通過者に偏っていた」(宮地アンガス社長という。20年からは「アワード」という名称を外して「サミット」に改め、アワード応募者に限らず幅広い観光事業者関係者が参加できるようにして4県の連携を強める。観光庁の宿泊旅行統計調査によると、18年の外国人延べ宿泊者数は全国が17年比11.2%増だったのに対し、4県の伸び率はいずれもこれを下回った。栃木を除くと前年

ひたちなかで邦楽フェス JR東、臨時特急を増発 8月、早朝など27本運行

JR東日本水戸支社は8月に開かれる国内最大級の邦楽フェス「ロック・イン・ジャパン・フェスティバル」にあわせ、

割れと苦戦が目立つ。宿泊者数をみても4県すべて都道府県別で30位台に

館林の「里沼」日本

市長、観光客誘

文化庁は20日、地域の文化財の魅力力をストーリー仕立てで発信する「日里」『実り』『守り』の本遺産」として群馬県館林市の「里沼」を認定した。同市の須藤和臣市長は「沼辺へ旅行者を誘致したい」などと話し、観光誘致で地域活性化をめざす考えを示した。

が申請した「里沼(SA TOINUMA)」『祈り』『実り』『守り』の沼が磨き上げた館林の沼辺文化」。市内にある多々良沼などの沼が人々の生活や文化と密接に関係していることを示した。記者会見した須藤市長は「(有識者と地元)

こつした中で